

未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



平成29年度 指導農業士・農業士会現地研修会にて（ドローンによる撮影）

日高管内 指導農業士・農業士(会)の活動

主査(担い手)小林 靖幸

北海道指導農業士は経営実績が優れ、担い手の育成に強い熱意と指導性があり、地域リーダーとして活躍が期待される農業者を、北海道農業士は地域農業の中核的担い手としての活躍が期待される農業者を対象に、市町村長が推薦し知事が認定する制度です。

日高管内では23名の指導農業士と18名の農業士がそれぞれの地域で活躍し、研修生の受け入れ、新規参入者の育成サポート、食育活動などの活動を通じて地域農業の振興に寄与しています。

毎年、夏には自己研鑽と指導農業士・農業士の交流を深めるための全道研修会が開催されます。今年度は、8月に根室管内で行われ、各地の指導農業士・農業士と情報収集や意見交換を行いました。また、管内でも、秋と冬に研修会を開催しています。秋の研修会は11月15日にむかわ町地域担い手育成センターと研修農場を訪問し、新規参入者の受け入れと育成、施設園芸作物の周年栽培について視察研修を行いました。また、平取町では大崎指導農業士により、新規参入者の育成と小学生を対象とした食育の取り組みについての説明が、更に株式会社大津山商店（苫小牧市）よりドローンの基本的な説明と操作実演が行われました。今後の管内の担い手育成・確保について、また、ICT(情報通信技術)が日高農業にどのように活用できるかなど考えるきっかけにも繋がった研修会でした。

未来の日高農業の一躍を担うべく指導農業士・農業士(会)の活動に期待しています！

参考にしよう！ 地域の活動事例

飼料用とうもろこしの収量調査を実施～新冠町ホルスタイン育成会 【本所 地域第1係】

新冠町ホルスタイン育成会は、構成員12名からなる青年組織で、学習活動等を通じて技術力や収益性の向上を目指す活動を行っており、普及センターも活動を支援しております。

毎年9月に、飼料用とうもろこしの収量調査を実施しており、今年は低温の時期もありましたが、調査結果は平年をやや上回り、上々の結果でした。

収量調査結果は普及センターがデータ整理を行い、学習会を通じて今年度の状況把握と次年度に向けた技術対策の検討を行います。



分担しながらスムーズに調査をする会員



上々の収量に笑顔が出る会員

少雪多照を生かした道内初の冬どりレタス産地が誕生！

【本所 地域第2係】

浦河町では、平成28年度より冬季の労力を活用した所得アップに向け、2戸で冬どり結球レタスの作付を始めました。その結果、高品質なレタスが生産・出荷され、市場から高い評価を得ました。地域のいちご専業農家、野菜生産農家、新規就農者からも「冬どりレタスを作ってみたい」との要望を受け、レタス生産組織、JA、町、普及センターでは本格的な産地化に向け活動を展開しています。

平成29年度は新規に7戸の生産者が加わり、計9戸の生産者が作付を開始しており、栽培面積も5aから70aと大きく伸びています。新たな試みとしていちごの高設ベンチを用いた栽培、2期作、11～3月どりも始まっています。10a当たりの販売額は土耕1作どりで180万円、労働時間は230時間と労働生産性が高いため視線が集まっています。



高温期の遮光による育苗管理



高設ベンチでのレタス直まき栽培

参考にしよう！ 地域の活動事例

門別町アスパラガス生産部会 越冬前調査で栄養状態実態把握！ 【西部支所】

門別町アスパラガス生産部会では平成28年から全戸（17戸）の越冬前調査（茎葉生育量、根中糖度、病害の発生状況）を行っています。

茎葉生育量調査・根中糖度測定は次年度の春芽収穫期間の目安となるもので農家も関心を持っています。

29年度は10月26日に普及センター、JA門別職員、地域おこし支援隊員（農業就農希望者）で全戸を巡回し生育量や茎葉の黄化率、病害発生、根中糖度を測定しました。

調査結果は部会員に報告し、次年度の栽培管理や収穫時期の判断等に活用していきます。



普及センターの指導を受けながら1m幅にある茎の太さを測る支援隊員(右)



各戸で草丈や立茎本数に違いがありました。

日高管内 農業研究大会 4Hクラブ員のアツい想いが語られる！ 【広域班】

平成29年12月5日、新冠町レ・コード館にて日高管内農業研究発表大会を開催、40名を超える参加者のもと、日頃の研究成果を報告する「プロジェクト発表」と青年たちの日頃の想いや将来の夢を語る「アグリメッセージ」についての発表が行われました。

プロジェクト発表は、新冠町4Hクラブの加藤裕也さんが「加藤牧場改造計画～2年後に迫った経営移譲に向けて」を発表。加藤さんが後継者となり6年が経過し、2年後には父親から経営移譲を行う。その前に、クラブ員の力も借りて、自家の飼養管理・経営を見直し、問題の掘り起こしや改善に取り組みました。改めて父親の営農方針や祖母の子牛管理の素晴らしさを実感すると同時に、経営移譲に向けて気を引き締める想いを発表しました。

アグリメッセージは、平取町4Hクラブの水野弘樹さんが「10万円買ったもの」と題し、内向的な自分を変えようと、10万円を握りしめ海外へ渡航、厳しい生活を過ごした。帰国後、4Hクラブに入会した時、積極的な自分変わったと実感した出来事を語りました。

発表した2名とも、平成30年1月18・19日に開催される全道大会で発表します！



新冠町 加藤 裕也さん



平取町 水野 弘樹さん



受賞された2名

「三石の花 デルフィニウム」

【本所 地域第1係】



新ひだか町三石地区を中心に花き栽培が行われています。平成28年度の花きの販売額は7億円を突破しました。花きの中でも、デルフィニウムの栽培が盛んで、面積・販売金額共に全道一の実績があります。また平成28年度の販売金額は、全国一でした。「みつし花だより」というブランド名で販売され、全国へ出荷されています。

写真：平成29年7月6日 みつし花き振興会品評会

「新規就農者へのいちごハウス貸付事業が功を奏す」

【本所 地域第2係】

浦河町・様似町では、JA子会社や町がハウスを所有し、夏秋どりいちごの新規就農者へ貸し付ける事業に取り組んで来ました。そのハウスは高設ベンチ自動換気装置、日射対応自動給液装置を備え、省力・安定生産に絶大な効果を発揮。平成29年のいちご栽培者36戸のうち、新規就農者は25戸を占めるまでとなり、販売量日本一の産地が実現しています。



「新人普及職員、ただいま奮闘中」先輩と共に現場を駆け巡る！

菊地 聖宗(きよたか)

採用から9ヶ月が過ぎた本所地域第2係畜産担当の菊地普及職員。彼の性格は「素直さ」と「忍耐力」を併せ持っていると言えます。象徴的な出来事は昨年夏、



牧草地で大発生したコガネ虫の週1回ごとの調査。多くの職員が嫌がりそうな業務も先輩からの指示に従い、文句一つ言わず黙々と仕事をこなしてきました。

今年が年男(成年)の菊地職員。今年は農家の皆さんに多く接する機会を作るとともに、素直さと忍耐力を忘れず、近い将来多くの方から頼りにされる職員となることを期待します。(執筆:A主査)

宮崎 駿(はやと)

昨年、西部支所に期待の新人、宮崎普及職員が採用されました。大学では農業経営を学んできましたが、畜産担当として、初めて経験する生産現場で一つ一つ学びながら奮闘努力真っただ中です。



プライベートでは、念願だったマイカーを手に入れ少しずつ行動範囲が広がり「今年はいろいろな事に挑戦したい！」と意気揚々です。もしかしたら、山奥で渓流釣りに奮闘努力している彼を見かけるかもしれません。

今年、何事にも「奮闘努力」の宮崎普及職員にLock-On！(執筆:A係長)

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>